

社会資本の活性化を先導する歩行圏コミュニティづくり

解決したい課題・研究開発目標

解決したい課題

■ 解決したい課題＝健康寿命の延伸

⇒日常生活における外出頻度や歩数の少なさは、死亡や要介護状態のリスク要因である。

⇒健康寿命の延伸において、「歩いてお出かけ」支援が重要な課題である。

■ 富山県富山市＝コンパクトシティを標榜する地方都市

⇒高齢者はちょっと足腰が弱り始めると、とたんに歩かなくなる。足腰の弱りに対する支援が必要。

⇒工学技術を生かしながらも、技術に頼りすぎない「歩行補助車」を活用した歩行支援に着想した。

目指す社会像

■ 誰もが楽しく歩いて暮らす

「歩行補助車」が地域高齢者の生活を助け、その地域で見慣れた風景となれば、「歩行補助車」は地域の文化となる。『道具』の助けを多少借りながら、自分で歩いて住み慣れた地域で普通に生活する。それが、本プロジェクトの目指す高齢社会のデザインである。

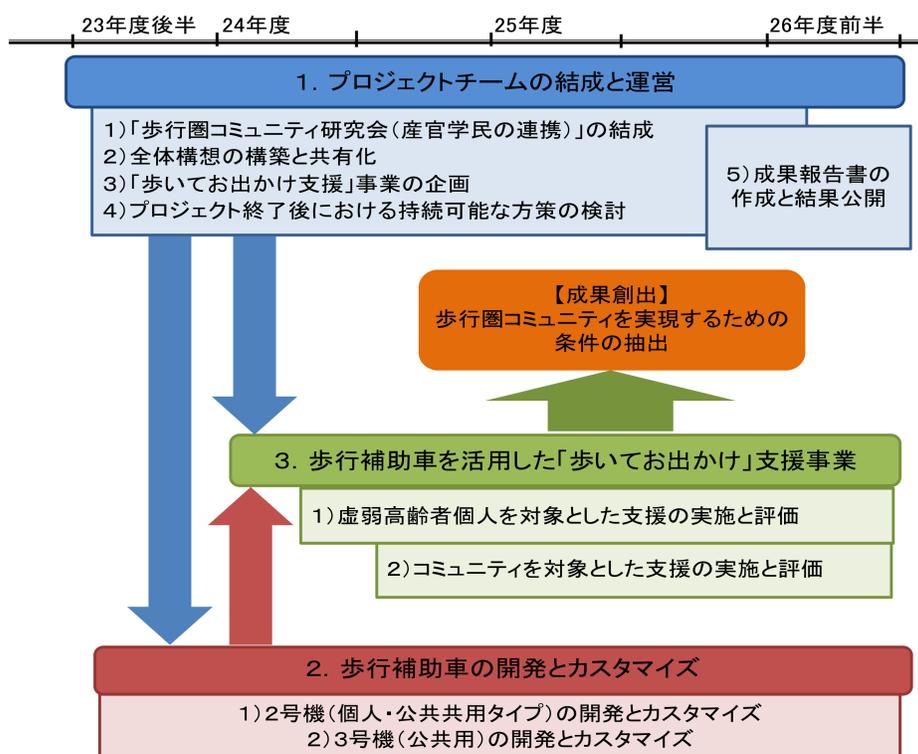
研究開発目標

■ 歩行圏コミュニティづくり

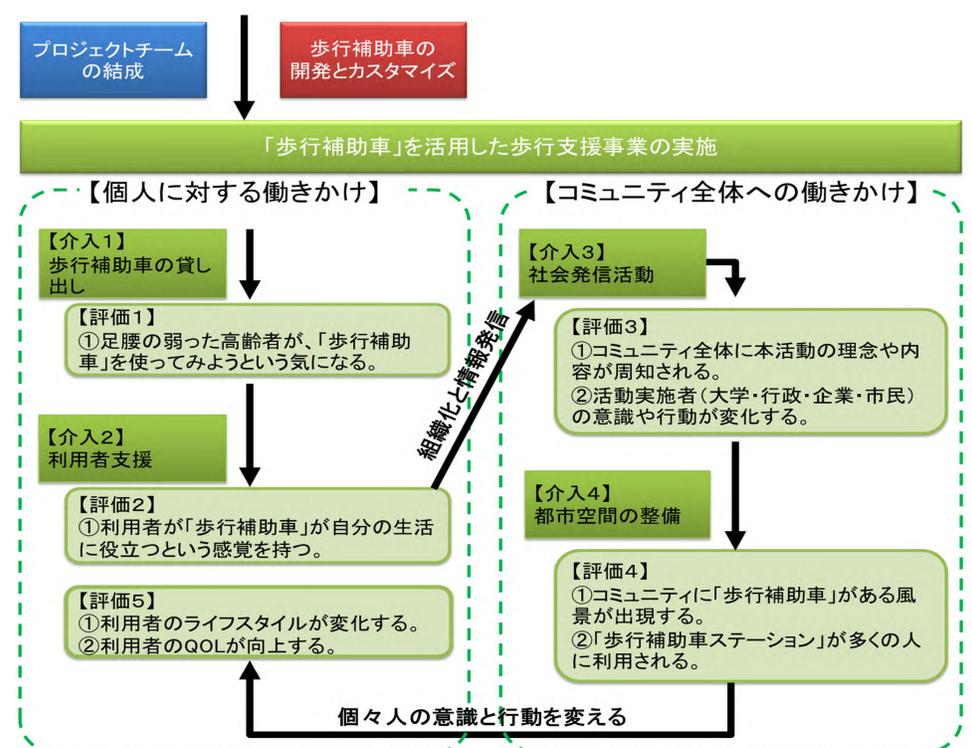
元気な高齢者も少し足腰が弱くなった高齢者も積極的にまちに出かけて、生き生きと交流を楽しみ、健康を維持することができる生活圏を「歩行圏コミュニティ」と定義し、その実現を目指す。

プロジェクトの実施方法

全体計画



プロジェクトの展開方法



対象コミュニティ

■ 富山県富山市



研究開発体制

■ 産学官民の協働

【富山大学歩行圏コミュニティ研究会(ホコケン)】

学: 富山大学(医学部看護学科、芸術文化学部、人間発達科学部、工学部、地域連携推進機構産学連携部門、学生)

官: 富山市(副市長、政策監、都市整備部、環境部、保健福祉部など)、

民: 富山市星井町地区住民(自治振興会長、長寿会)、歩行補助車モニター、商店街関係者など

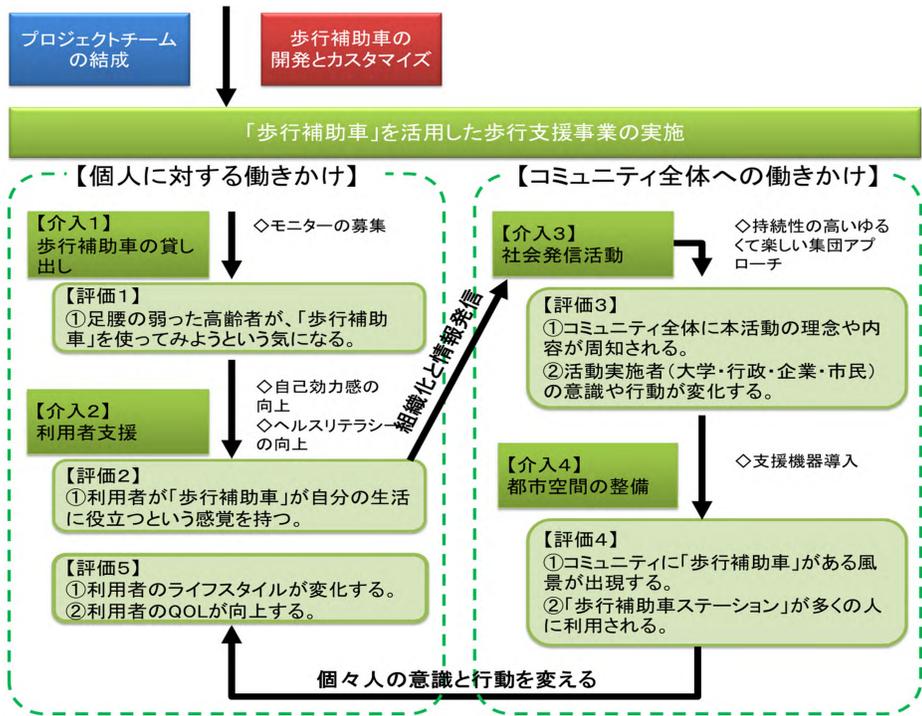
産: 地元企業

プロジェクトの成果と今後の展望

プロジェクトの成果(開発した社会技術)

モノづくりとソーシャルキャピタル(住民の底力)を融合した地域づくり活動の一例を示した

■「歩行圏コミュニティづくり」活動モデルの開発



■地域高齢者の力を引き出す要件の提示



■高齢者の歩いてお出かけ支援における「環境介入」に寄与する具体的内容の提示

◇みんなで歩いてみんなで探す事業
「まち歩きツアー」「まち歩きコースの設定とその検証会」

◇歩行補助車ステーション(=歩行補助車シェアリングシステム)



グランドプラザ

ファミリーパーク

富山市役所

■歩行補助車「富山まちなかカート」の開発



2号機(個人・公共共用ツール)

3号機(公共用ツール)
2014年度グッドデザイン賞受賞

販売モデル
2015年7月販売開始

今後の展開・展望

■本活動を県内外の多地域に普及・展開したい

⇒開発した活動モデルは、他地域における高齢者の健康づくり・介護予防活動にも活用可能である。
⇒他自治体の反応:富山市での”成功”を確認してから取り入れたい。

■当面の課題:富山市でのホコケン活動の定着

⇒歩行補助車ステーションの利活用の促進と利用状況の定量化
⇒高齢者が地域づくりの支え手として活躍するための支援スキームの構築

プロジェクトWebサイト・お問い合わせ先

「社会資本の活性化を先導する歩行圏コミュニティづくり」

富山大学歩行圏コミュニティ研究会  <http://hokoken.org/>

中林美奈子: TEL/FAX 076-434-7444 E-mail: minako@med.u-toyama.ac.jp